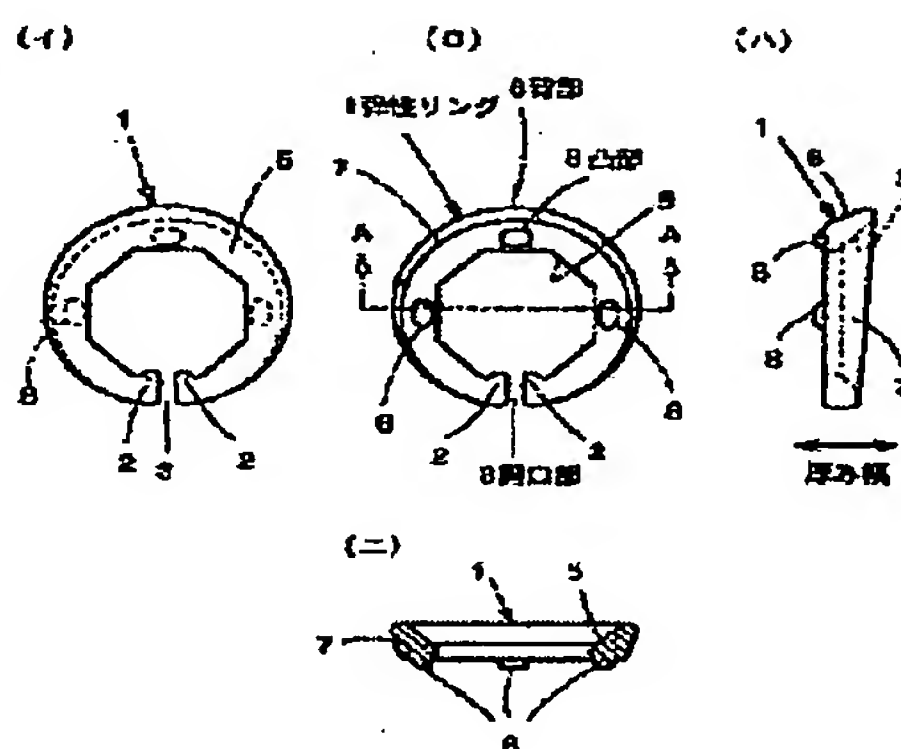


Publication number: JP2003033380
Publication date: 2003-02-04
Inventor: TAMURA TERUO
Applicant: YUUMAINDO KK
Classification:
- International: A61F5/37; A61F5/37; (IPC1-7): A61F5/37
- European:
Application number: JP20010222840 20010724
Priority number(s): JP20010222840 20010724

Report a data error here

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a device for correcting pseudo phimosis, capable of imparting sufficient effect on the pseudo phimosis, maintaining a glans in an exposed state even when a preputium penis covers the glans in men with much surplus thereof, and securely attaching an elastic ring to a stepped part immediately behind the glans. **SOLUTION:** The thickness of a C shaped elastic ring 1 in the horizontal direction has a wider back part 6 positioned at the opposite side to an opening 3 than the periphery of the opening 3. The back part 6 of the elastic ring 1 may have a rear side 6 higher than a front side thereof, and the C shaped elastic ring 1 may have a protrusion 8 at the front side thereof.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(2) 開2003-33380 (P2003-33380A)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 C字状の弾性リング(1)の前後方向の厚み幅が、開口部(3)の周囲よりも開口部(3)の反対側の背部(6)の方を広く形成してあることを特徴とする仮性包茎矯正器具。

【請求項2】 弾性リング(1)の背部(6)を、前側よりも後側の方を高くしたことを特徴とする請求項1記載の仮性包茎矯正器具。

【請求項3】 C字状の弾性リング(1)の前面に凸部(8)を有することを特徴とする仮性包茎矯正器具。

【請求項4】 C字状の弾性リング(1)の前面に凸部(8)を有することを特徴とする請求項1又は2記載の仮性包茎矯正器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は仮性包茎の人の包皮を剥いた状態を維持して包皮に皺を定着させ亀頭を露出させる仮性包茎矯正器具に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の仮性包茎矯正器具としては、C字状の弾性リングが存在し、弾性リングの開口部を下側に向けて亀頭の直ぐ後側に嵌めて使用する。しかし、亀頭を覆う包皮の余りが多い人の場合は、剥いた包皮が元の状態に戻ろうとする作用によって、嵌めた弾性リングの上側となる背部を包皮が乗り越え、弾性リングを嵌めながらも包皮が亀頭を覆ってしまい、矯正効果が発揮されないこともあった。

【0003】また、弾性リングはその前面側を亀頭の直ぐ後の段差部分に押し当てるようにして引っ掛かることによって、陰茎から外れないのであるが、弾性リングの前面側が平面になっていたためか、人によっては段差部分に弾性リングの前面側が引っ掛かり難いことがあった。この場合は、陰茎を締め付けている開口部を支点にして弾性リングの背部が恰もお辞儀をするかのように亀頭を乗り越えて外れそうになり、それに伴って包皮が元に戻り、矯正効果が発揮されないこともあった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は上記実情を考慮して開発されたもので、その共通の目的は何れも矯正効果を十分に発揮できるようにすることである。また、請求項1及び2の発明の固有の目的は、亀頭を覆う包皮の余りが多い人でも、亀頭を露出させた状態を維持できるようにすることである。さらに、請求項3の発明の固有の目的は、弾性リングを亀頭の直ぐ後の段差部分に確実に引っ掛かるようにすることである。請求項4の発明の固有の目的は、上述した二つの固有の目的を達成することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】請求項1の発明は、C字状の弾性リングの前後方向の厚み幅が、開口部の周囲よ

りも開口部の反対側の背部の方を広く形成してあることを特徴とする。

【0006】弾性リングの内周面は、前側から後側まで均一な口径にするよりも、後側に向かって口径が広がるテーパ状に形成することが、亀頭の後側の陰茎形状に対応しているので望ましい。

【0007】請求項2の発明は、請求項1の発明において、弾性リングの背部を、前側よりも後側の方を高くしたことを特徴とする。後側が前側よりも段差状に高くなっている方が、テーパ状に高くなっている方が、包皮を傷つけるおそれがなく望ましい。

【0008】請求項3の発明は、C字状の弾性リングの前面に凸部を有することを特徴とする。凸部は、一つであっても良いし、複数設けても良い。

【0009】請求項4の発明は、請求項1又は2の発明において、さらに、C字状の弾性リングの前面に凸部を有することを特徴とする。

【0010】

【発明の実施の形態】本発明の仮性包茎矯正器具を図1と図2に基づいて説明するが、図1(ロ)の正面図の状態を基準とする。

【0011】仮性包茎矯正器具は、C字状の弾性リング1であって、弾性リング1の両端部に内向きの突起2をそれぞれ有し、弾性リング1の両端部の間を装着用の開口部3とし、弾性を利用して開口部3を広げて亀頭4の直ぐ後(亀頭冠状溝)に嵌める。

【0012】弾性リング1の内周面5は、前側を正八角形の一边の中央部を切り欠いて角の部分を取った形状に形成すると共に、後側を正八角形よりも直径の大きな円形状に形成し、前側から後側に向かって口径が広がるテーパ状に形成してある。また、弾性リング1の厚み幅は、両端部、即ち開口部3の周囲から、開口部3の反対側である背部6の頂点に向かって広がっている。数値の一例を具体的に挙げると、開口部3の周囲の厚み幅を4mmから5mmの範囲に、背部6の厚み幅を6mmから8mmの範囲に設定する。

【0013】弾性リング1の外周面を水平な開口部3から背部6に向かって、徐々に外径が広がるテーパを付けて、背部6の後側を前側よりも高くしてある。数値の一例を具体的に挙げると、背部6の前側よりも後側を3mmから6mmの範囲で高く設定する。また、弾性リング1の前側の外径は、亀頭よりも僅かに広くしてある。さらに、弾性リング1の前面は、全体的に平面であって、三つの凸部8を、内周寄りの周囲に沿って左右と上側に均等に配置し、各凸部8を丸みの帯びた形状にしてある。なお、弾性リングの素材には、たとえばエラストマー樹脂を用いる。

【0014】上述した本発明は、弾性によって陰茎を弾性リング1が軽く締め付けるので、位置ズレが起こり難い。また、弾性リング1の内周面の前側を正多角形の一

(3) 開2003-33380 (P2003-33380A)

片を切り欠いた形状にすると共に、弾性リング1の両端部の突起2、2が尿路の両側に位置する状態に装着することによって、弾性リング1が装着時に陰茎を中心にして回らないようになる。また、弾性リング1を角張った部分のない面取りした形状にしてあるので、陰茎が傷つかない。

【0015】

【発明の効果】請求項1の発明は、背部の厚み幅を開口部の周囲の厚み幅よりも広くしてあるので、包皮の余りの多い人であっても剥いた包皮が背部を乗り越えにくくなり、仮性包茎を矯正する効果が発揮される。また、弾性リングの厚み幅を開口部の周囲から背部まで均一に広くするよりも本発明は開口部の周囲の厚み幅を狭くでき、装着の違和感がない。

【0016】請求項2の発明は、背部の前側よりも後側を高くしてあるので、剥いた包皮が背部を一段と乗り越え難くなる。

【0017】請求項3の発明は、亀頭の直ぐ後の段差部

分に凸部が引っ掛かるので、弾性リングを嵌めた状態が確実に維持され、外れるおそれなくなり、その結果、矯正効果が発揮される。

【0018】請求項4の発明は、請求項1と請求項3の両効果、又は請求項1から請求項3までの全ての効果を有する。

【図面の簡単な説明】

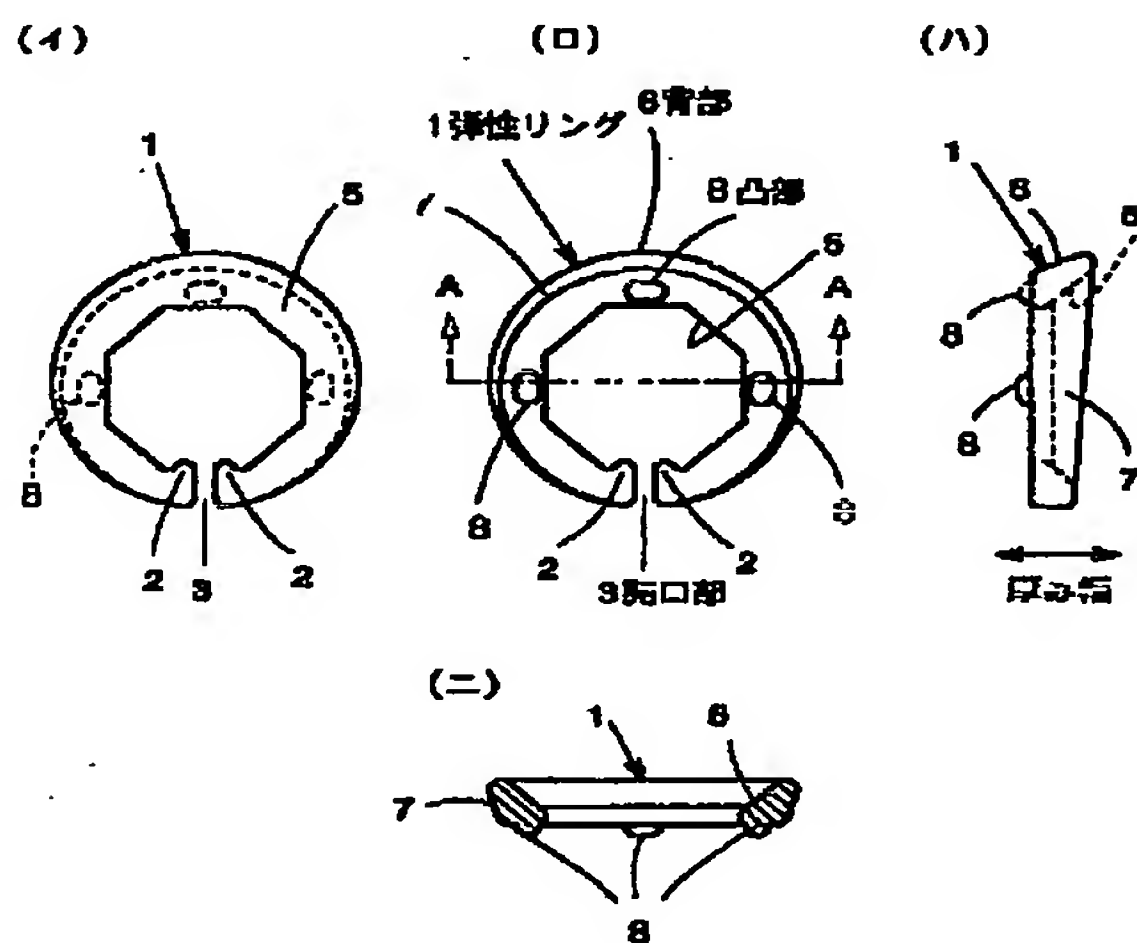
【図1】(イ)(ロ)(ハ)(ニ)本発明の仮性包茎矯正器具を示す背面図、正面図、右側面図、A-A線断面図である。

【図2】本発明の仮性包茎矯正器具の使用状態図である。

【符号の説明】

- 1 弾性リング
- 3 開口部
- 6 背部
- 8 凸部

【図1】



【図2】

